



東大・阿古智子教授

中国返還時は香港にいたが、「一国二制度」を50年間保障された香港が25年でここまで変わるには誰が予測できただろうか。ここ3年で香港は急速に中国共産党式の統治モデルに引き込まれた。

中国にとって最優先は「国家の安全」で、2020年の国安法施行でそれを徹底させようとした。14年の白書で中国が香港の全面的な管轄統治権を持つとするなど「中国化」の伏線はあったが、歴代政権で一定程度は守られた一国二制度が習近平政権下でなきものになった。

尊敬されていた大学教授や弁護士も大量に拘束された。暑い刑務所で服役させられていると思うと胸が張り裂ける思いだ。議会や司法の独立を訴えた香港人の人権を踏みにじり、都合の悪い者を排除する。中国の「愛国者統治」は完全に香港に浸透してしまった。

急速な中国化で、香港は関税上の優遇措置や金融、高官の渡航などに関し、欧米からさらに制裁を科される可能性がある。国際金融センターの地位は危うい。経済発展した中国自身も、香港という独自の金融センターを持つメリットを感じなくなりつつある。

習近平国家主席は今回、25年間の統治成功を内外にアピールし、愛国者統治を着実に進むと宣言した。

新しい行政長官と政務官は治安畑出身で国安法を推進した側だ。スパイ対策の強化などが公約で、言論・思想統制は一層厳しくなるだろう。